

平成29年度事業「西川町議会事務事業評価シート」
議会による事務事業評価（西川町議会）

	予算科目	事業名
5	6款1項5目 畜産振興費	仁田山放牧事業運営費

1 項目別評価

評価項目	評価点	意見等
1 必要性 <small>町民ニーズ</small>	5	近隣市町村との連携やクラスター協議会設立などの動きは見られるが、仁田山放牧場事業の本来の目的は町内畜産農家の経営を安定させることであり、その畜産農家が激減する中、町として新たな畜産農家を育成しようという動きも見られず、本事業の必要性に大きな疑問を持つ。 また、景観保全としての必要性も町はあげるが、必ずしも放牧場として管理しなければならないというものではない。
2 妥当性 <small>町が行わなければならないか</small>	5	近隣の公共牧場が閉鎖されたこともあり、平成29年度の放牧頭数48頭中37頭は町外の畜産農家所有の牛である。公共牧場として畜産振興の上で必要だという町の考え方も理解できるが、それならば本町が単独で運営することは、果たして妥当と言えるのか。 他市町村の畜産振興のために本町が経費を負担しているということへの疑問を持つべきではないか。
3 効率性 <small>事業手法の効率はいいか。コスト削減の余地はないか。</small>	7	平成9年度からだけで約16億円もの事業費を投入している。それにより整備された施設の一部はほぼ利用されていない。放牧事業そのものは低コストで効率化されているとはいえ、投入された事業費に見合うような畜産振興の現状にはなっておらず、効率性が高いとは言えない。
4 成果 <small>目標の達成状況</small>	7	放牧場の運営という点で放牧頭数の目標が達成されていない。 町内の畜産農家の経営安定が目的のはずだが、そのための目標が存在しない。

2 全体評価

評価	評価基準	合計評価点
5	1 きわめて良好である 100点	24
	2 良好である 75～99点	
	3 おおむね適正である 50～74点	
	4 問題がある 25～49点	
	5 かなり問題がある 1～24点	
	6 不適正である 0点	

3 今後の方向性

評価	評価基準	判定理由
5	1 拡充する	総合的な畜産振興に対して町の意欲が感じられず、町内の畜産農家の新規参入も期待できない。 景観保全や観光面での活用は、放牧場として利用しているうちは逆に難しいと思われる。
	2 現状のまま維持する	
	3 改善し継続する	
	4 見直しのうえ縮小する	
	5 期間設定し終了	
	6 廃止する	

4 評価に係る意見等

事業の総合評価に関する主な意見、特記事項及び今後の方向性の理由等
<ul style="list-style-type: none"> ・民間業者とのクラスター協議会設立は町内の畜産振興にどう役立つのか。そもそも「西川牛」というブランドはどの程度認知されていて、それを守り、存続させる意義はあるのか。 ・気軽に立ち入ることのできない場所を観光資源として活用するのは困難である。景観を売り物にするなら別の視点で考え、大胆に変更して活用すべきだ。 ・公共牧場としての必要性があるというなら、町単独ではなく関係市町村や県とさらに連携して運営するような方向性を検討すべきだ。